

喜志城跡・中野北遺跡

—宅地造成に伴う発掘調査報告書 (KSC2021-1)—

2022.6.30 富田林市教育委員会

1 調査経緯と調査地について

本調査は、中野町三丁目にて行われた宅地造成に先立つ発掘調査である。令和3年12月17日に事前調査を行い、柱穴とみられる構造や遺物を確認した。この結果を受け、道路予定部分（図2）について本調査を実施した（令和4年2月24日～4月4日）。

調査地の西には中野町墓地・中野町児童公園が位置し、調査範囲は喜志城跡と中野北遺跡の両方の埋蔵文化財包蔵地範囲となっている（図1・2）。喜志城跡は、周辺より一段高い中野町墓地辺りを中心とした範囲に比定されている。しかし現在までに城や砦などの遺構は確認されていない。

2 基本層序

調査区全域で、現地表面からGL-0.6mまで近現代耕作土（1～4・7・8層）が覆っている（図4）。調査地西端では、耕作土下 GL-0.7mまで古代～中世の遺物包含層（9・10層）、10層直下は地山層となる（9・10層は直下の遺構（SXI）の埋没年代から、近代に搬入された整地土であったことが判明）。調査地東側では9・10層に代わり黄褐色砂や粗砂層、砂礫層が、さらに東端ではにぶい黄褐色粘質土層などが堆積する。事前調査時には、にぶい黄褐色粘質土層上面から遺構を検出した（SP3）。そして、これらの下層（GL-0.75～0.8m）が地山層（褐色粗砂礫層と砂層の互層、褐

色礫混砂層）となる。

3 調査成果

調査は、9・10層直下とその東側に広がる黄褐色砂や粗砂層・砂礫層、にぶい黄褐色粘質土層上面を第1遺構面、地山直上を第2遺構面として実施した。

1) 第2遺構面（図3・5、写真1・2）

遺構は、自然流路（NR37）・小穴（SP31～36）・不定形土坑（SK30）を検出した。調査区東側の一部の小穴は第1遺構面に帰属する可能性がある。小穴からの出土遺物は土師器細片のみで、中世に属する。

自然流路 NR37（図3、写真2） 調査区中央部を北から南方向へ流れた自然流路と考えられる。アゼ部の幅約3.2m、深さ0.5mで、アゼより南へ約2mの所で急に浅くなり、埋土が周辺にオーバーフローしている。出土遺物は、瓦器碗（図5-1）のほか須恵器・土師器細片が少量出土しており、埋没時期は12世紀前半頃か。

2) 第1遺構面（図4・5、写真3・4）

小穴（SP2～11）を複数検出し、その分布は調査区東側に集中する。そのほか溝（SD12）、池状遺構（SX1）を西端で検出した。ベース層は一様ではなく、複数時期に亘る遺構を検出した可能性がある。

小穴（図4、写真3） 主に径0.3m前後と0.5m前後に分けられる。多くは深さ0.1m以下だが、SP3は0.2m、SP4は0.25mで、SP3には柱痕跡が残る（図4）。第



図1 調査地と周辺遺跡分布図



図2 調査区配置図

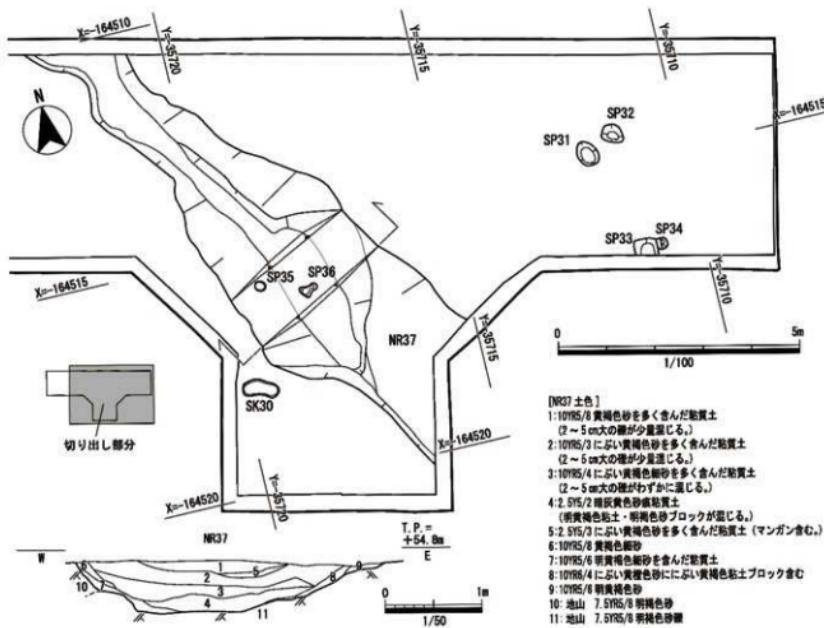


図3 第2遺構面平面図・NR37断面図

2遺構面で検出した小穴も合わせて検討したが建物復元には至らない。これらの小穴からの出土遺物は中世の土器類のみである。

SX1(図4・5、写真3・4) 調査区西端で検出した池状遺構である。東西3.3m以上、南北4.9m以上、深さ0.8mで、底面は平滑である。東側面は人頭大の河原石を一列積んだ上に直径12cm程度の丸太を杭で固定し、さらにその上にもう一列河原石を積み上げ、隙間に握り拳大的石を入れている。同様の石が埋土最下層に多く落ち込んでおり、他側面も石積みが施されていた可能性がある。埋土下層には竹や木材の加工痕のある木端などの他、漆器碗など植物質のものが多数出土した。

墨書のある板材(図5-4)は天部が山形を呈し、地部は欠損する。両面に同じ文字が記されていることや形状などから高札状の物か、隣接する墓地との関連も考えられる。この他、瀬戸内濃焼磁器染付端反碗(図5-2)、関西系陶器銅緑釉碗(図5-3)など近世末の遺物が出土したが、近代の遺物は出土していない。

調査地点の記録を探ると、明治19(1886)年に描かれた「大字中野全図」では池の表示がなされている。また、地元の溝川安雄氏が中野町の伝聞等をまとめた『我が町我村七百年の歩み』によると、村の北墓地の南側に村内防火用水池があったことが記されている。これらに示される池が、SX1に該当する可能性は高く、少なくとも明治19(1886)年まで池として利用されていたとみられる。SX1を埋めた後、9・10層で整地をした上を耕作地として利用し、現在に至る。

4まとめ

今回の調査では、中世前期の遺物を伴う流路がみつかったが、中世遺跡としての具体的な様相は掴めなかつた。喜志城跡についても関連する時代の遺構・遺物は確認できず、今後も検討していく必要がある。一方で、調査地西側で見つかった池状遺構SX1は、しっかりと護岸が施されており、村を守る防火用水池と言われても頷ける。近世～近代の村の共同体としての在り方を示す良好な資料が得られたと考える。

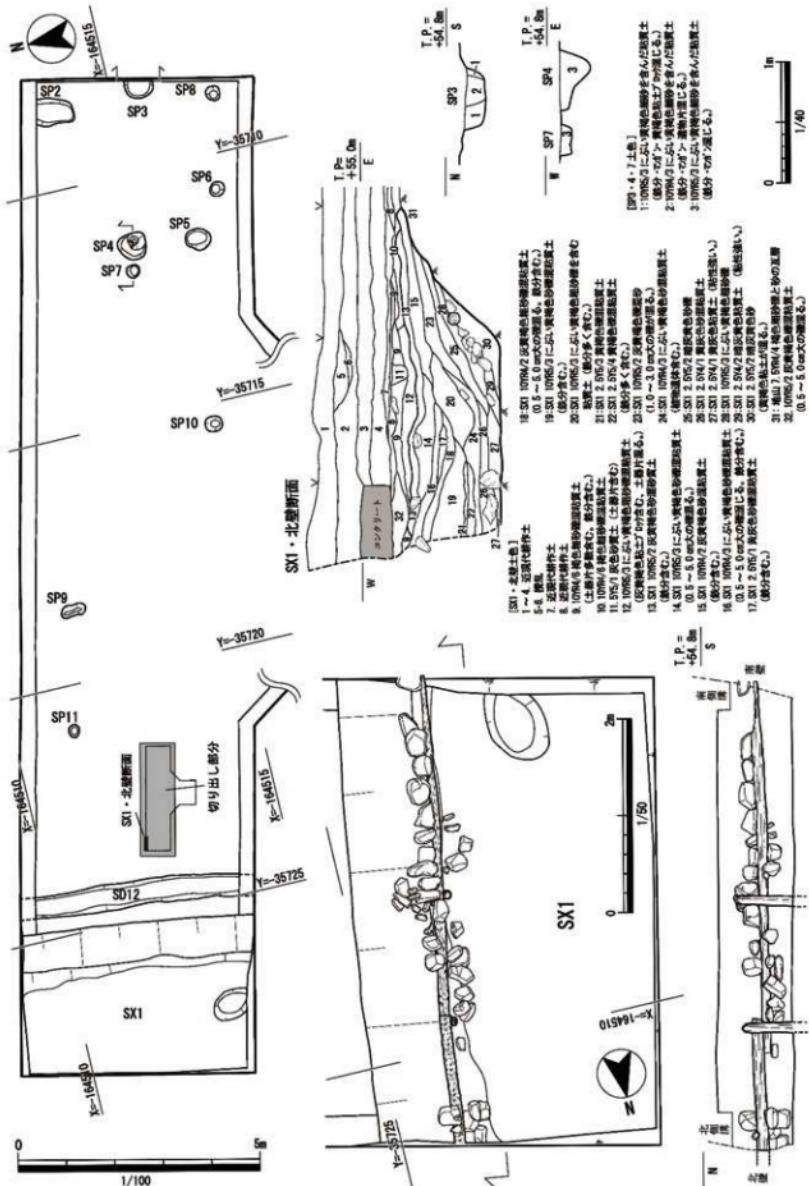


図4 第1造構面平面図、SX1平面図・立面図・断面図

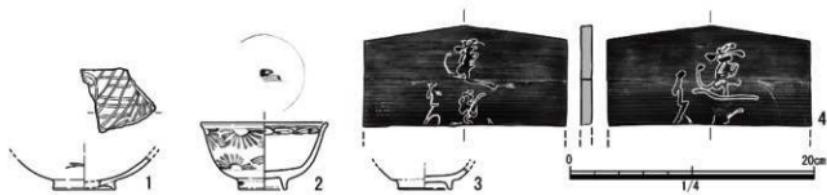


図5 遺物実測図 (1:NR37、2~4:SX 1)



写真1 第2造構面完掘状況（東より）



写真2 NR37 断面（南東より）



写真3 第1造構面完掘状況（東より）



写真4 SX 1 石積状況（南西より）

報告書抄録

ふりがな	きしじょうあと・なかのきたいせき	副書名	宅地造成に伴う発掘調査報告書 (KSC2021-1)					
書名	喜志城跡・中野北遺跡	シリーズ名・番号	富田林市文化財調査報告77					
編集機関	富田林市教育委員会	編著者名	渡邊 晴香					
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000 (代)							
発行年月日	2022(令和4)年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	発掘原因	
喜志城跡 なかのきたいせき 中野北遺跡	とんだばやししなかのちょう 富田林市中野町 さんちょうめ 三丁目	市町村 27214	154 15	34° 30' 59"	135° 36' 37"	20220224 ~ 20220404	131m ²	宅地造成 (記録保存調査)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
喜志城跡 中野北遺跡	集落跡	中世～近世	溝、柱穴、池	上師器、須恵器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、木製品				

印刷 明朗社